

第1章

魅力 発見！

東彼杵町

豊かな水と緑に抱かれた私たちの町、東彼杵。ここには、思わず写真に収めたくなるフォトジェニック・スポットがいっぱいです。

カナダを思わせる山々と堤の風景や、キラキラと陽光をはじく大村湾、青空に映える若緑の茶畑……

眼前にのびのびと広がる風景に、心洗われるひと時。

有史以前の昔から、人々を育んできた肥沃な大地を踏みしめて、はるか古代に思いを馳せるのもいいでしょう。

心やすらぐ日本の原風景と歴史のロマンが共存する町へ、小さな旅に出てみませんか。



2



3



1

波おだやかな
琴の海

水辺の風景。

魅力
その
1

- 1 陽光をはじく大村湾の絶景。青空に溶け込みそうに見える対岸は西彼杵半島。
- 2 たそがれ時の音琴漁港。鏡面の海には、もうひとつの夕日が映えます。
- 3 串ノ浦付近を走るシーサイドライナー。知る人ぞ知る撮影スポットでもあります。
- 4 長崎自動車道大村湾パーキングからの夕景。休憩ついでに風景も楽しめます。



4

この土地に温暖な気候をもたらした恵みの海・大村湾。
町を囲む多良山系の山々から湧き出した水の流れは、時にしぶきをあげる激しい滝となつてほとぼしり、海を目指します。
さまざまに表情を変える豊かな水は、見る人を魅了してやみません。



6



5



1



7

町のくらしに 寄り添いながら



3



2

- 1 遠い夏の日、子どもたちの声が響いた旧彼杵海水浴場も今は静かな松原に。
- 2 元禄波止と呼ばれる旧彼杵港。たくさんの人や荷物が船出していきました。
- 3 川棚町との境界に近い音琴地区の漁港。大村湾漁協東彼杵支所も傍らに。
- 4 千綿川河口、水神橋のたもとの船の繋留施設。左手奥には水神宮もあります。
- 5 多良山系の山々を背後に、彼杵川中流の穏やかな流れにくつろぐひと時。
- 6 川に組まれた石はうなぎ塚といい、彼杵川の天然うなぎを捕える仕掛けです。
- 7 彼杵川最下流、どこかのんびりした風情の橋を渡れば旧長崎街道彼杵宿へ。



4

深澤三代の 偉業

コラム

初代深澤儀太夫勝清は、江戸初期に紀伊国（現和歌山県）で捕鯨法を学んだのち大村で鯨組を組織し、五島方面で鯨漁をおこないました。捕鯨で得た巨万の富を惜しむことなく、大村市野岳湖（野岳堤）、東彼杵町の三井木場堤のほか新田開発や道路改修など多くの公共事業に費やしたのです。その功績により、藩主大村純長より深澤の姓を賜りました。

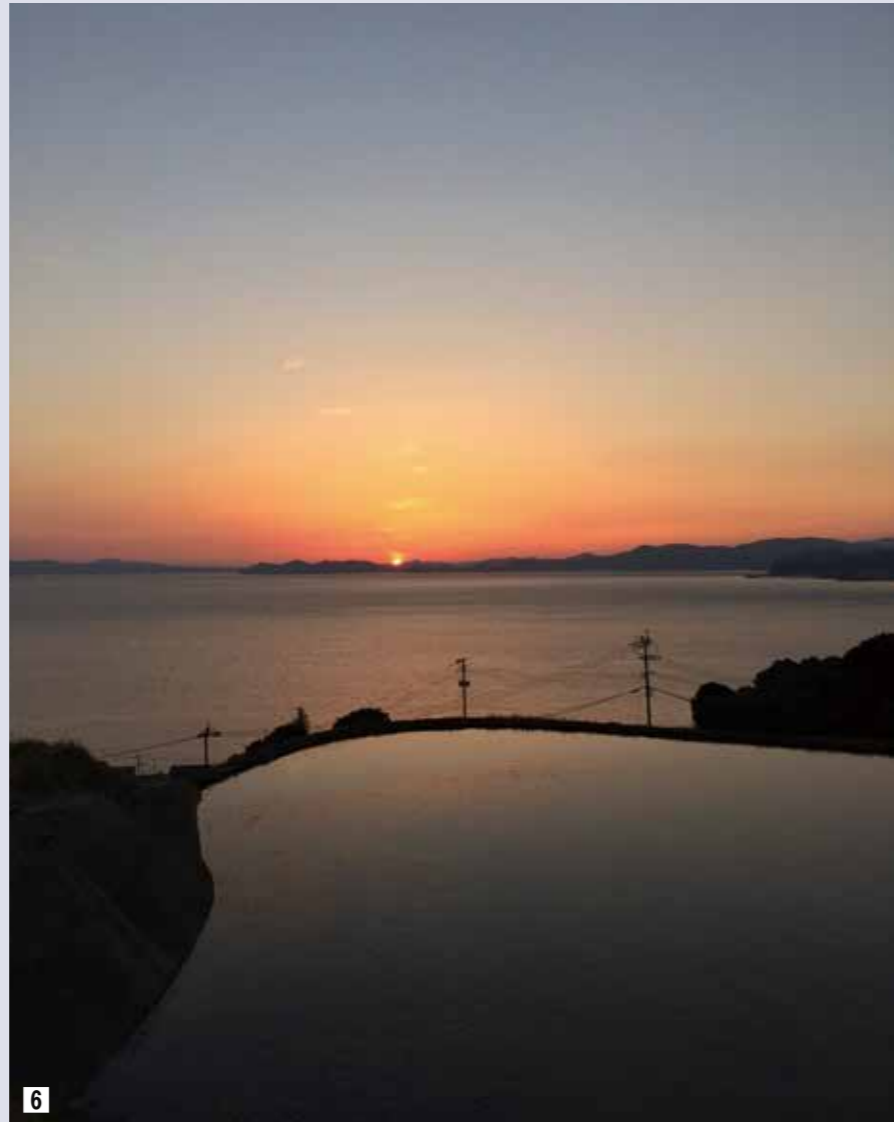
初代勝清の弟で養子となった二代目勝清も、捕鯨で築いた私財を投じて、東彼杵町の蕪堤、中堤、鹿ノ丸堤、瀬瀧堤を築き水田を開発しています。また、勝幸の二男儀平次重昌も同様に綿打堤、太田代堤を築きました。現在、三井木場堤のほとりに、儀太夫家の偉業を称える顕彰碑が建てられています。



- 1 2 レトロな JR 千綿駅は、さまざまなメディアに取り上げられる人気スポット。
- 3 列車が到着するまで、目の前に広がるとびきりの風景を楽しんで。
- 4 緩やかにカーブした線路を、海側にわずかに傾きながら列車はホームへ。
- 5 JR 大村線を走るシーサイドライナー。海側に座れば、車窓には大村湾の夕景。
- 6 豊かに湛えられた水はまるで鏡面のように。空との境目すら曖昧になります。
- 7 初代深澤義太夫の献金で築かれた、堤長約 180 メートルの三井木場堤。



ここにしか ない風景



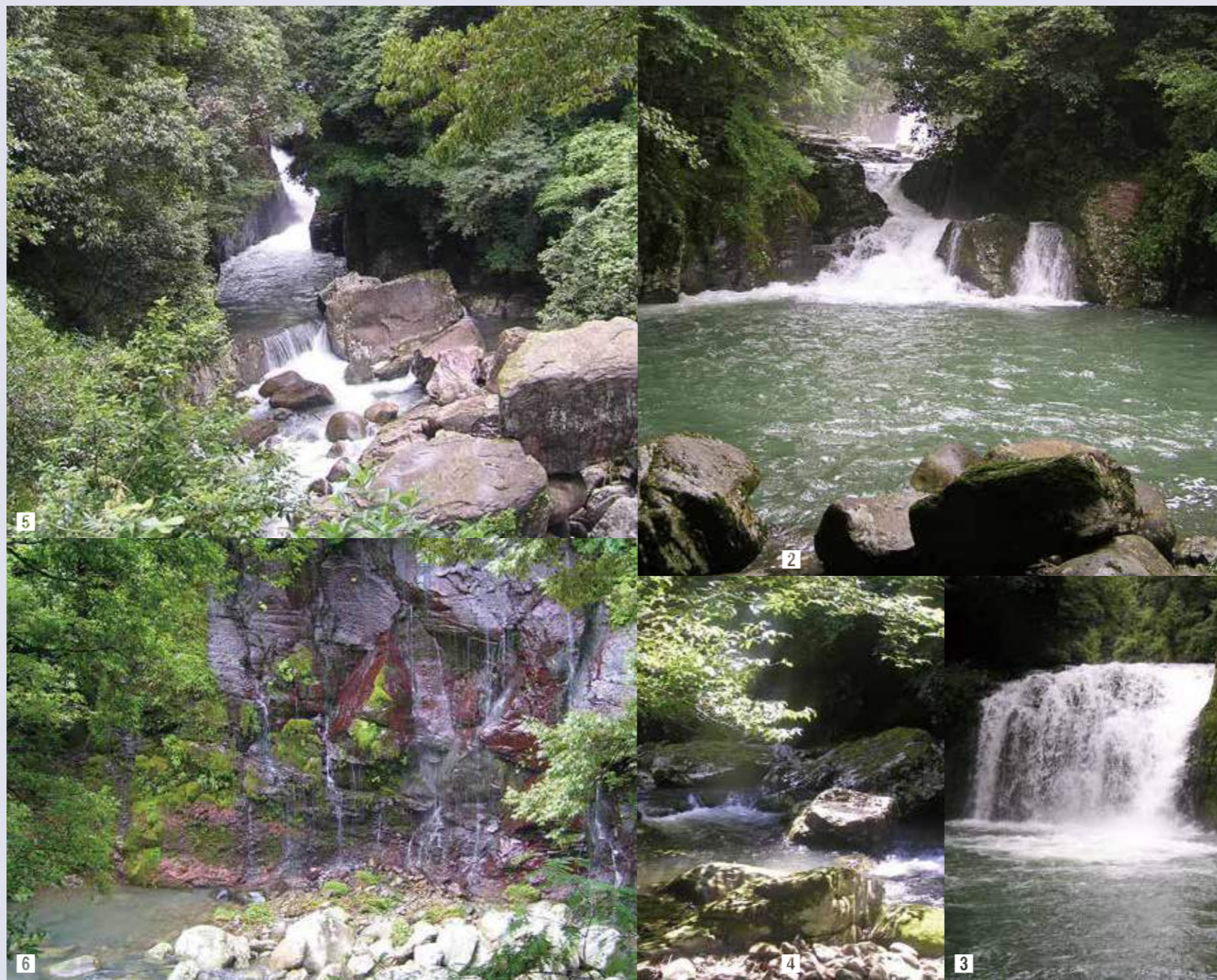
コラム
龍頭泉と広瀬淡窓

多良岳県立自然公園の一部、龍頭泉の名で知られる千綿溪四十八潭は、千綿川の清流に沿って四十八の滝と淵が連なる美しい渓谷です。「龍頭泉」はもともと渓谷の奥にある滝のひとつにつけられた名前でしたが、渓谷の総称として用いられ、親しまれています。

名付けたのは江戸時代の儒学者・広瀬淡窓です。江戸時代末期の弘化二年（一八四五）、大村藩主の大村純顕に招かれ、この渓谷を訪れまし

た。みごとな景観に「まるで巨大な龍が横たわっているかのようだ」と感嘆し、それぞれの滝や淵に「玉簾の滝」「木葉不浮淵」などの名前をつけたと伝えられます。

広瀬淡窓は豊後国日田（現在の大分県日田市）で私塾を開き、数多くの門人を育てた教育者として名高い人物です。また、漢詩人としても著名で、千綿に生まれ育った武士で俳人の川原元治（俳号：悠々）と親交がありました。



- 1 巨大な龍に見立てられた千綿渓谷。龍頭泉橋付近から下ると「龍頭泉」の滝。
- 2 龍頭泉からやや下流、流れ落ちた水は深さ18メートルの「木葉不浮淵」へ。
- 3 静かな「静止淵」を経て、豊かな水量の滝となって「呑空淵」に流れ込みます。
- 4 さまざまな形状の岩の間を水しぶきとともに流れていく千綿川中流。
- 5 「蓮花淵」は龍の腹部にあたる部分。川は大きな岩の間を流れていきます。
- 6 岩にはじける水しぶきが輝くすだれのように流れ落ちる、美しい「玉簾の滝」。



息をのむ景観